

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察技術情報について

令和4年度病害虫発生予察技術情報第8号を発表したので送付します。

令和4年度病害虫発生予察技術情報第8号

カンキツにおけるかいよう病、そうか病、黒点病の防除対策について

沖縄地方の向こう3か月の気象予報によると3～5月の降水量はほぼ平年並か少ない見込みです。また、暖候期予報により梅雨期(5月～6月)の降水量は平年並に雨の日が多いと予想されています。このため、カンキツにおけるかいよう病、そうか病および黒点病が平年並みに発生するおそれがあります。3月以降は新梢発生期となるため、入梅期前の3～4月に防除対策を徹底しましょう。今後、収穫まで品質の良い果実を収穫するため予防防除に努めましょう。

1 生態

かいよう病

- (1) 葉、緑枝、果実に発生する(図1、2)。
- (2) 病斑は点状から始まって2～10 mmに拡大し、その周囲に黄色のふちどりが生じる。
- (3) 伝染源は樹上の葉、枝などの病斑であり、新しい病斑ほど重要である。
- (4) 病原菌は、気孔や傷口から感染し、風雨によって広範囲に飛散する。台風やハモグリガによる葉や枝の傷口は感染を助長する。

そうか病

- (1) 葉、新葉、果実に発生する(図3)。
- (2) 葉では発病が激しいと変形や小形化する。若い時期に感染すると組織が隆起してイボ型病斑となるが、それ以降になると灰色のかさぶた状のそうか型病斑となる(図4)。
- (3) 第一伝染源は前年の古い病斑で越冬する。春先の新梢や幼果に形成された新しい病斑上で、降雨後に胞子が形成されて二次伝染源となり、雨滴に混じって飛散、伝染する。

黒点病

- (1) 葉、緑枝、果実に0.1～0.5 mmほどの黒点を形成する(図5)。
- (2) 枯枝直下の果実は濃厚感染し、雨滴の流れに沿った涙斑状や泥塊状の病斑を形成する(図6)。
- (3) 病原菌は枯枝で越冬し、この枯枝が唯一の伝染源となる。
- (4) 水媒伝染性の病害で、被害は落花後から収穫前までの降雨に左右される。

2 防除対策上注意すべき事項

かいよう病

薬剤防除は発芽前、落弁期、梅雨期、台風前後を重点に散布を行う。併せてミカンハモグリガに対する薬剤防除を行う。

そうか病

そうか病は発芽前に越冬病葉を除去し、園内が多湿にならないように間伐、剪定を行う。発芽直前、落花期、入梅期前の薬剤防除を重点的に行うことが重要である。

黒点病

枯枝を発生させないように樹勢の維持につとめ、枯枝は見つけしだい除去する。被害は落花後から収穫前までの降雨に左右されるので、薬剤防除は4月上旬～6月中旬までに重点をおき、散布を行う。

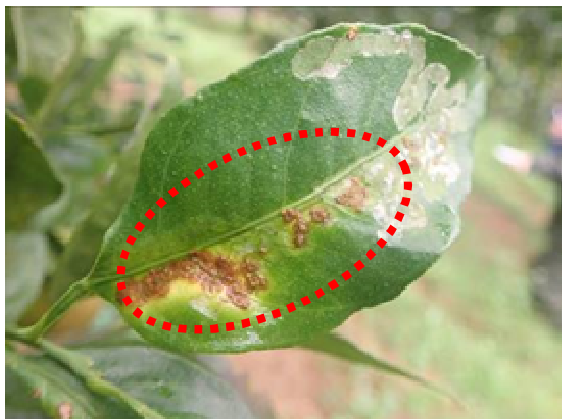


図1 かいよう病の葉被害



図2 かいよう病の果実被害



図3 そうか病の葉被害 (イボ型)



図4 そうか病の果実被害(そうか型)

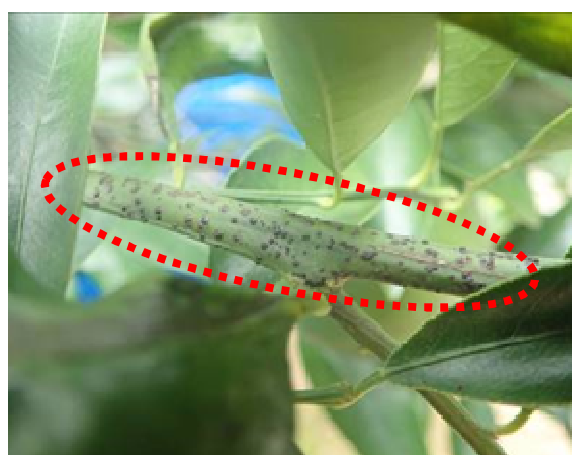


図5 黒点病の緑枝被害



図6 黒点病の果実被害(泥塊状病斑)

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>